

## 第2回世話人会会議まとめ（概要）

開催日時：平成18年5月14日（日）15時5分から17時20分

出席者（敬称略）： 杉山、高山 成富、岩崎、鱒沢 卯月、窪田、山下  
小宮 橋本、平松 三田、伊藤、土屋、高野

### 【議 事】（概要）

#### 1 基本構想審議会の設置について

（1）事務局から資料に基づき説明。

・基本構想審議会の骨子案の作成時期が、18年11月頃の見込みとなった。これに伴い当初予定していた審議会と区民会議との意見交換は、19年1月頃になるかもしれない。については、区民会議委員の委嘱期間の延長も視野に入れておいてほしい。

（2）審議会委員に区民会議から学識委員を除いて、各分科会から1名の推薦を頂きたい。（改めて、世話人会会長宛に5月30日までに推薦を依頼する。）

#### 2 編集部会からの報告

（1）部会長から資料に基づき、これまでの経緯、大項目の考え方、今後のスケジュール、今後の編集部会としての課題について説明。

（2）第6分科会から資料に基づき、全体の章構成について意見。

・各分科会のテーマ、6つの分科会を設定した理由を新宿区に教えてほしい。

・これまで各分科会ごとに進めてきたので、各分科会ごとの章立て、大項目を作って最終提言を行う方が通常ではないか。本来ならば、世話人会の中でさらに大項目について調整する必要があった。時間が無いので中間のまとめに沿って行うことが良い。あくまでも第6分科会の案であるが、各分科会ごとのテーマ案が別紙である。

・区民会議と地区協議会の大きな役割について、区民会議は部門別まちづくりの検討、この点を確認したい。分科会の分野、地域の公共課題は部門別の分類ではないか。これら分科会ごとの分類で提出するのが良いのではないか。

・区が想定する計画体系はどのようなものか。

・区民会議の目的の一つに、構想・計画の策定段階から意見をいただくことがある。最終提言としては、総合的かつわかりやすく枠を作っていくと認識し、世話人会、編集部会でテーマごとに決めていくことがよいと考えている。

現行の計画体系に基づく提言を求めるといふ検討は行われていない。今後の計画体系については、今後の審議会等において検討する。現在の4本の柱という大項目は、世話人会でオーソライズされていない、審議の上決定するものと認識している。

・第6分科会の考えとしては、現行の体系との違いをはっきり見せることが重要と考

えている。どこまで区民の意見が入っていったかを明確にする。区にいいところだけ採られては困る。区民の意見をもっとも効果的に活かすには、現行の計画体系を基にするべきであるという提案である。

- ・第6分科会では協働・参画を扱い、第1分科会では、子どもの参画を取り上げている。第1と第6で別々にというのはいかがなものか。お互いの意見交換についてはどう考えるのか。4つの章案の中で検討あるいは6つの章案で別々と言うことか。
- ・これまで調整する時間をとって欲しかったが、現段階になれば、基本構想審議会に預けるということになる。
- ・区民の意見が消えてしまい困ることはどこも同じ。議論の時間が無かった。あえてテーマを構成しなおしたものより、分科会ごとのほうが楽だ。担保が欲しい。
- ・意見交換の場を持ちたい。まだ、モヤッとした部分を消したい、納得したいという思いがあるので、時間と場があれば行いたい。
- ・6つの章にしようというのは、今更である。編集部会で議論している。また同じような意見としか思えない。
- ・編集部会に決定する権限があるとは思っていない。大項目に対する振り分けは、確定していない。原点に戻って捉え直しすることを提案している。
- ・6分科会は、4月27日の段階では4章を前提とした提案をし、他の分科会へ依頼を出したのではないか。
- ・あの時点での意見である。大項目をきちんと書く、新宿区政の柱になる。そういう観点からの議論はしていない。
- ・政策分野別に議論。世話人会に出すべきものではないか。
- ・編集部会ではそうだが、世話人会としては初めてである。そういう議論する場は欲しい。
- ・これまで時間をかけ検討し、各分科会でも共通に取り組んできた編集部会の決定を尊重すべきである。
- ・現行の行政計画体系を必ずしも踏襲しなくてよいと考えている。総合性に欠けている。ふさわしくない。なるべく総合性の体系にチャレンジしている。この体系がベストとは思っていないが、途中経過を示して、今後の審議会の中でやったほうが良い。戻すような議論は受け入れられない。不十分さはわかるが、先に進めるべきである。
- ・いろんな考え方があるのは理解できるが、分科会ごとにまとめるということ、キーワードに基づき進めている結果がいまの状況である。分科会ごとに、大テーマにばらさずに、区民にわかりやすく、なるべくまとめられている。
- ・基本計画のあり方ということで考えているわけではないので、区民の意見を尊重する、自然な形を。対立的には見えない。

- ・協働を別々で書いても構わない。積み重ねで進めている。編集部会の議論を尊重していくべき。
- ・現行の体系を議論の前提としていない。区民レベルでは無理。基本構想審議会が担当すべき事項と考える。
- ・第6分科会は非常に熱心でこれ以上の時間は取れなかったはず、この点については敬意を表す。テーマ自体が横系の性格が強い。役割は充分果たしているのではないか。6分科会の主張は、4つの章立て、自分の章で書くなり、基本構想審議会でも検討して欲しい。
- ・現行体系を変えるための手法であり、現行体系が良いと思っているわけではない。基本構想審議会の中でも考える。参画など現行の体系にも別々に書いてある。それでいいのではないか。関連性はあるにしろ、望ましい形を述べた。第6分科会の委員の想いを示させていただいた。
- ・今後、大項目の責任者を出す等の時間で意見交換できる。前のものが出てきたことに対する違和感がある。
- ・各分科会とも熱い意見を持っているが、それだけでは進まない。
- ・これまでの議論の進め方の中で意見を反映させていくことでどうか。
- ・現行と同じものは作りたくないという想い。やってきた結果がどう変わったのか解らないのではないか。
- ・今後の流れについては、提言を最大限尊重し、審議会に示し、骨子案の段階で意見交換をする。基本構想、基本計画、実施計画に活かす、活かしていないことはきちんと示す。そういう場を設ける。
- ・大項目のタイトルについては、今日の編集部会で検討していただく。
- ・編集部会の権限はどうなる。
- ・大項目、中項目は世話人会で決めていただいたほうがいいのではないか。
- ・関連する分科会で話し合った結果を尊重する。編集部会で充分。
- ・中項目が中心である。集まった結果の仮置きを編集部会で担当する。大勢で議論時間がかかる。
- ・第6分科会からの前回の提案について受け入れる、受け入れないは、編集部会で検討する。
- ・今日他の分科会からも意見がある。5時からの編集部会の案で作る。
- ・編集部会にお願いすることを了承する。
- ・大項目の担当者等の未定事項についても編集部会にお願いする。

### (3) 最終提言WGからの報告

部会長から資料に基づき説明

- ・ 区民宣言についてはどうなったか。
- ・ 宣言書は編集部会で提言に盛込んで頂けることを前提に、一言沿えて提言書を渡すということになった。
- ・ 4つの項目ごとの発表とあるが、分科会をまたいで発表できるのか。分科会の代表をはっきりしてほしい。
- ・ 編集部会、世話人会でどうか。
- ・ 発表は分科会ごとで行なってください。
- ・ コンセプトとしては、どういう活動をしたのか、内容なのかを話したい。
- ・ 熱い想いを語る。分科会ごとに違う。提言書を踏まえつつ想いを語る。
- ・ 世話人会、編集部会では対応できないので、WGで担当して欲しい。
- ・ どんなことを話すか、発表者レベルで決定でよいのではないか。
- ・ 各分科会からWGを1名追加してほしい。各分科会15分の持ち時間。

#### (4) 世話人会の会長及び副会長の選出について

- ・ 事務局が資料に基づき説明
- ・ 今後の役割として意見交換等の役割も必要となる可能性あり。
- ・ 区民会議の代表ということで、区民委員の第1分科会の高山委員に決定。
- ・ 副に第2分科会 成富委員(アドバイス役)と第3分科会から山下委員に決定。

### 3 その他

基本構想審議会のコンサルの選定について報告。